

観音寺市内遺跡発掘調査概要報告書

平成13年度国庫補助事業報告書

高屋遺跡試掘調査概要報告書

2002.3

観音寺市教育委員会



七宝山遠景（有明浜より）

例 言

1. 本書は、観音寺市教育委員会が平成13年度国庫補助事業として実施した、観音寺市内遺跡発掘調査事業の高屋遺跡試掘調査概要報告書である。
2. 今回の調査は、観音寺市が実施予定の七宝山林道整備事業に係る埋蔵文化財の試掘調査として実施した。
3. 試掘調査及び本書の執筆・編集は、観音寺市教育委員会事務局生涯学習課 文化振興係 主査 久保田昇三が担当した。また、出土遺物の整理、実測、トレースの一部は一葉智代美が担当した。
4. 挿図の一部に観音寺市全図其の1(1/10,000)を使用した。図面の方位はすべて磁針方位で示した。また、実測図の縮尺はすべてスケールで表示した。
5. 出土遺物は観音寺市郷土資料館で保管している。
図面・写真等は観音寺市教育委員会事務局で保管している。
6. 本事業の実施にあたっては、宗教法人高屋神社代表役員 西田準一氏、高屋神社主任総代 藤原和雄氏、発掘調査に携わった坂田昇氏、西山秋久氏、牧野巧氏にご協力を頂いた。記して、謝意を表します。
7. 本事業及び本書の作成にあたっては、次の方々よりご指導ご協力頂いた。記して謝意を表します。(アイウエオ順・敬称略)
井元滝雄、片桐孝浩、信里芳紀

目 次

グラビア・例言・目次

	頁
1. はじめに（経緯と経過）	1
2. 調査対象地区の概要（立地と環境）	1
● 周辺遺跡分布図（1：20,000）	2
● 高屋遺跡（神社）周辺地形図（1：10,000）	3
3. 試掘調査結果	4
① 高屋神社周辺調査について	
・ トレンチ1	
・ トレンチ2	
・ トレンチ3	
・ トレンチ4	
・ 高屋神社の地形について	
● トレンチ配置図及び高屋神社境内図（1：400）	5
② 高屋神社北東部巨石群について	6
・ トレンチ5	
・ トレンチ6	
● 高屋神社北東部巨石群及びトレンチ配置図（1：200）	7
4. その他	8
・ 神社境内の石造物について	
5. まとめ	8
6. 写真目次	9
7. 参考資料	24
・ 高室郷土誌（復刻版）	

1. はじめに（経緯と経過）

本事業は、観音寺市内に所在する埋蔵文化財の位置、範囲及び性格等を把握するため試掘調査等を実施し、今後の文化財保護行政の基礎資料とするものである。

平成13年度においては、調査対象地区を観音寺市が計画をしている七宝山林道整備事業に係る地域とした。当該事業地区内には周知の包蔵地として高屋遺跡が所在するが遺跡の範囲、性格等が未詳であるため、今後の遺跡の保存を図るための資料を得るため地形測量、トレンチ調査を中心に試掘調査を実施するに至った。

2. 調査対象地区の概要（立地と環境）

高屋遺跡は「全国遺跡地図 香川県」（文化庁文化財保護部 昭和52年3月25日発行）によれば高屋神社の位置に祭祀遺跡として掲載されている。しかし、これまでに高屋遺跡が正式に発掘調査された記録がなく遺跡の性格や規模、範囲等については未詳な状態であった。恐らく、延喜式内社であることや境内やその周辺に祭祀跡と思われるような石造物等があることからそうされたのであろう。

高屋遺跡（神社）は七宝山系の中でも稲積山と呼ばれる標高約406mの所に位置する。ちなみに七宝山系の最高所は444.22mの三角点の高野山である。七宝山系は概ね山全体が安山岩で構成され、一部礫を含んだ凝灰岩が頂上部の一部に見られる。

ここで、祭祀遺跡と関係が深いとされる高屋神社の概要をまとめてみる。

祭神は彌々杵命、保食命、木花咲夜姫命で延喜式によれば、刈田郡に六座（山田神社、加麻良神社、於神社、粟井神社、黒嶋神社）あるもの的一座として高屋神社の記載がみとめられる。また、日本三代実録には貞観九年五月十七日乙卯の条に、授讃岐國正六位上高家神從五位下、とある。

その他文献資料として、西讃府志や高室郷土誌（複製版）（明治44年頃のもの）がある。それらに記載されているものを一部要約すると神社は稲積山の嶺にあったのを慶長年間（1596～1615）に山の半腹に移したとある。さらに、宝永年間（1704～1711）に山の麓に移した。なお、旧地には小祠があったので、高稲積、中稲積といい麓にあるのを下稲積と言っていた。しかし、再び、里人が祟りを恐れて天保2年（1830）に再び山の嶺のものと場所に戻して本殿などを造営したとのが記載されている。（詳しくは後段に参考資料として一部を掲載。）

また、神社関係のその他の施設として七宝山系の観音寺市側の字稲岳山の標高435m（高屋神社から北東方向に直線距離で約850m）の場所に龍王さんと呼ばれる小祠やノタと呼ばれる小規模な湧水池（高屋神社から北東方向に直線距離で約300m余りの標高365m付近）がある。後者のノタと言われる湧水池はかつて神社の祭礼用や宮守の生活用水として使われていたようである。

なお、龍王さん近くの標高約441mの尾根の頂点から南西方向（高屋神社の方向）に延びる尾根上には、前述のノタの付近まで幅約7～8mの火道と呼ばれる防火帯が山道に沿って設けられている。

周辺の遺跡については七宝山の麓になる高屋町、室本町やその周辺に多くの遺跡が確認されている。その代表的なものに、なつめの木の貝塚（縄文前期・後期）をはじめ室本遺跡（弥生前期）、鹿隈鎌子塚古墳（古墳前期）、前の原箱式石棺墓群、丸山古墳（古墳中期）、池の宮1号・2号古墳（古墳後期）、興昌寺山古墳（古墳後期）、高屋庵寺、糸里制跡、九十九山城などがある。（周辺遺跡分布図参照）

周辺遺跡分布図

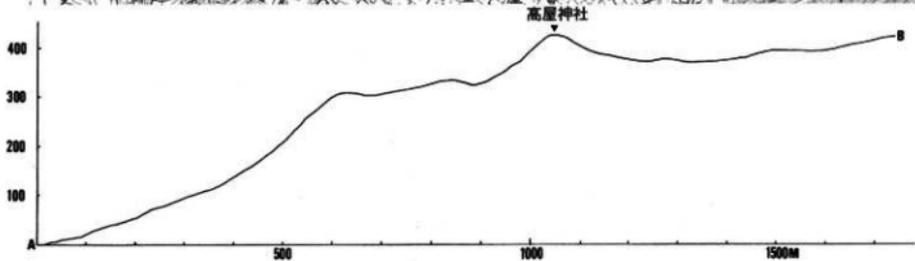
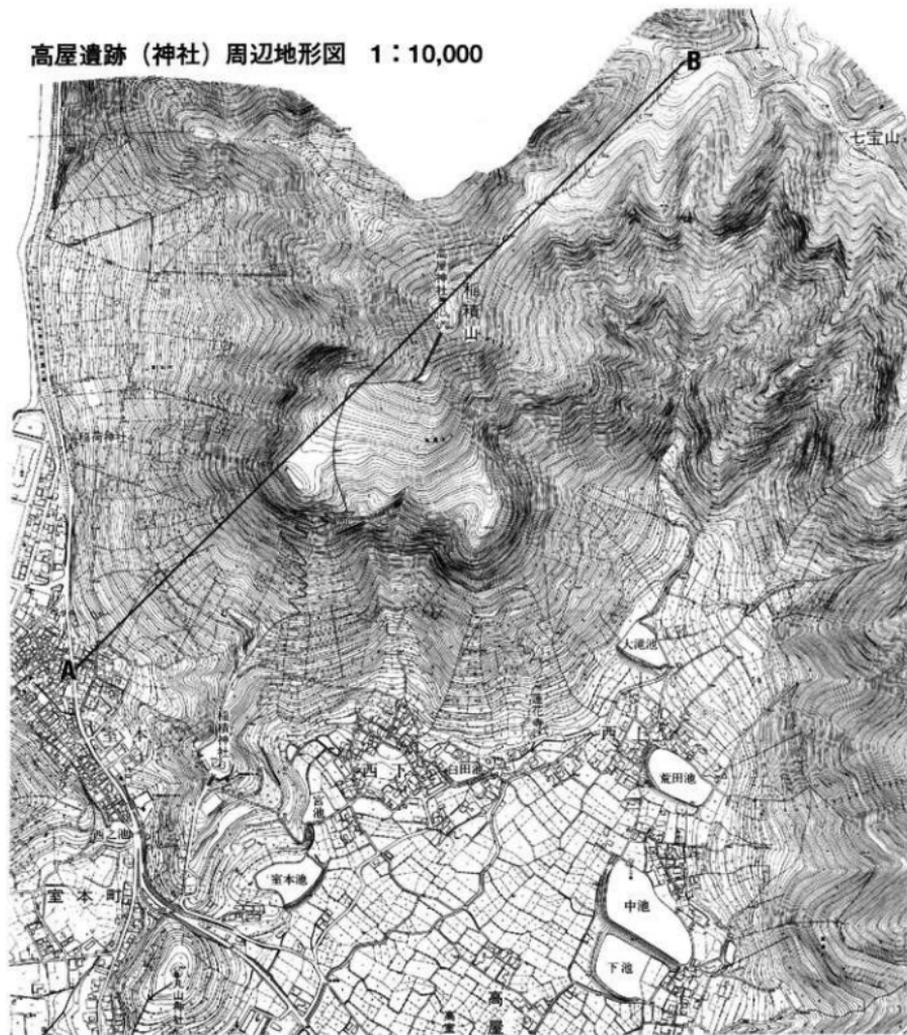
1 : 20,000



- | | | | |
|-----------------|------------------|----------------|---------------|
| 1. なつめの木の貝塚 | 2. 室本遺跡 | 3. 九十九山南側砂丘遺跡 | 4. 丸山古墳 |
| 5. 字東丸山古墳群 (仮称) | 6. 池の宮1号古墳 | 7. 池の宮2号古墳 | 8. 高瀬 (の) 古墳 |
| 9. 七宝古墳 | 10. 前ノ原七宝古墳 (仮称) | 11. 鹿隈鎌子塚古墳 | 12. 丘東箱指押石棺墓群 |
| 13. 興昌寺山1号古墳 | 14. 興昌寺山2号古墳 | 17. 九十九山城 | 18. 十王堂跡骨壺発見地 |
| 19. 山崎宗鑑墓 | 20. 一夜庵 | 21. 宗鑑法師之墓 | 22. 細川氏政供養塔 |
| 23. 忠魂碑古墳跡 | 24. 高屋遺跡 | 25. 高屋神社北東部巨石群 | 26. 問答石 |

【興昌寺市内遺跡発掘調査概要報告書 平成12年度国庫補助事業報告書 詳細分布調査概要報告書】2001.3 興昌寺市教育委員会 より

高屋遺跡（神社）周辺地形図 1:10,000



3. 試掘調査結果

今回は、高屋遺跡近辺の林道の計画路線沿いの場所にトレンチと平成12年度の詳細分布調査で確認した高屋神社北東部の巨石群についてトレンチを設定し遺構・遺物の確認や一部平板測量も併せて行った。

① 高屋神社周辺調査について

まず、高屋神社側の調査結果から記することにする。神社側はおもに境内の東側に4箇所のトレンチを設定した。なお、神社の北側や西側については想定される林道が神社境内から比較的離れていることや急斜面で危険を伴うこともありトレンチの設定は見合わせた。

・トレンチ1（トレンチの位置については「トレンチ配置図及び高屋神社境内図」を参照。）

当初から立石状の比較的大きめの石が露出していたのでこれを中心に標高403.40～404.80mあたりにトレンチを設定した。出土遺物は比較的新しい瓦片（軒丸瓦や平瓦）などが表面の腐植土を除くと検出された。また、1点であるが古代の土師器片が巨石の西側に接して出土している。土質的には腐植土を除くとすぐに拳大の安山岩の礫層（表面は黄褐色）の地山になる。そして、礫層の下には人頭大からそれより少し大きめの礫が検出される。検出した当初は人為的なものかと考えたが他のトレンチの状況が明らかになるうちに自然のものであると思われるようになった。とにかく遺物が1点のみであることや新しい瓦片が散乱していることにより神社を造営する際や改築する際にかなり開墾された状況がある時期にあったのではないかと推察される。また、トレンチの中央部を南北に横切るように石垣が延びてきている状況がある。この点からも別な意味で大きな石垣の外側の自然地形が残されている緩やかな斜面部には意外に後世の手が入っていると思われる。

・トレンチ2

本殿の東側のトレンチ1から北へ約20mの標高404.20～404.80mの場所に設定した。直径約1m余りの平面形が不整形の円に近い巨石があり、その巨石の裾部や周辺の状態を確認するために設定した。結果は、表面の腐植土を取り除くとトレンチ1と同様拳大の安山岩の礫層（地山）が検出された。遺物は検出されなかった。

・トレンチ3

トレンチ2から南東方向へ約5mの標高403.40～402.50mの場所に設定した。この場所はトレンチ2のあたりが緩やかな斜面であるところから少し東へ下った斜面の傾斜が変換するところである。この場所にも長径1mを超える巨石が存在する。前述のトレンチと同様拳大の安山岩の礫層の下側に人頭大の比較的大きめの石の層が確認された。他のトレンチと違うのは地形の変換点であるためか拳大の礫が多かったことである。出土遺物は土器片や陶器細片等数点のみの出土である。時期についても現段階では不明であるが近世のものではなかろうか。

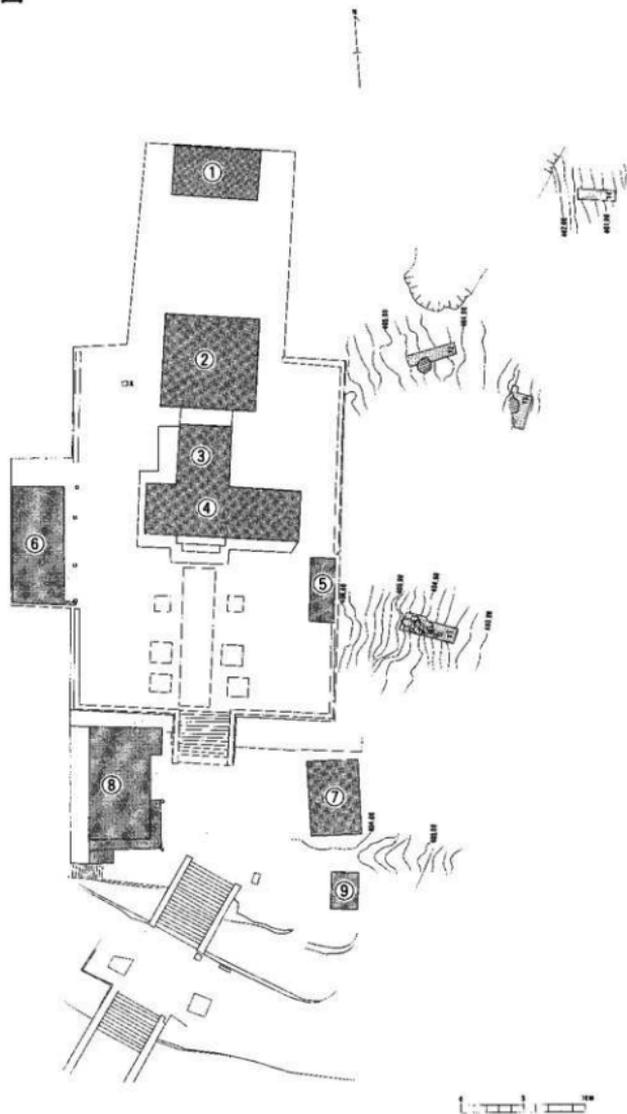
・トレンチ4

トレンチ2から北東方向へ約15mの標高401.40～400.80mの場所に設定した。このトレンチも他のトレンチと同様であり、腐植土を除くと地山となる。遺物も認められなかった。

・高屋神社の地形について

高屋神社の所在する場所は七宝山系のなかでも特異な地形である。標高約441mから南南西方向に

トレンチ配置図及び
高屋神社境内図



- ① 神奥庫
- ② 本殿
- ③ 幣殿
- ④ 拝殿
- ⑤ 授与所
- ⑥ 神官控室
- ⑦ 接待所
- ⑧ 神職官舎
- ⑨ 風呂

伸びる尾根上で、一旦標高が約370mまで下がった尾根が再び標高約400m余りまで盛り上がる地形の頂上部に位置している。標高370m～406mまでの標高差約35m余りの地形はいわゆる富士山型をしており麓の平野部からみるとその部分だけが一段飛び抜けて高い地形となっている。遠近法の視覚的効果から約40mも標高の高い山のピークよりも高く見え稲積山の特異な地形を形成している。

神社の境内はほぼ南北を主軸として建物や石垣等の施設が配置されている。平坦面は3段ありそれぞれが石段でつながれている。標高406m程度の最上の平坦面には周囲を石垣で土地を造成しかさ上げしている状況が確認できる。建物は拝殿、本殿のほか瓦葺の木造平屋建の建物が3棟あり石灯籠（文久3（1863）年）、狛犬（明治41（1908）年）や玉垣も設置されている。石段を南に14段下ると標高404m程度の第2の平坦面となる。この場所には木造平屋建瓦葺の建物3棟のほか山の北側に出る山道が平坦面の東側から始まっている。さらに、石段を南西側に20段下ると標高401m程度の第3の平坦面となる。この平坦面には建物はなく、石灯籠、百度石（明治35（1902））、天水と銘がある石碑（明治44（1911）年）などがある。また、この平坦面は東側にのび北側にまわりこむような構造となっている。なお、これより南西方向の下側に204段と23段の石段などが続き登山道になっている。

現在はこのような地形となっているが、玉垣、石垣、灯籠などの銘文を観察するとほとんどが江戸末及び明治の頃のものであることがわかる。恐らく江戸末期前の地形はもう少し旧地形に近かったのではないだろうか。また、最上平坦面中央部西側に円形の一見すれば直径約5mの小円墳のような地形がある。これについては、屋根や建物を修理した際に瓦等を廃棄した跡であると思われる。また、トレンチ2と4の付近で大量に土砂が採取されている場所がある。恐らく、建物や石垣などの材料調達のためであろう。

② 高屋神社北東部巨石群について

平成12年度に行った詳細分布調査の報告書に高屋神社北東部巨石群として掲載した区域である。高屋神社から北東方向に延びる細い尾根上にあり標高374m～386mの水平距離で約35mの間に集中している。現在のところ、林道は直接この区域を通る計画はないが近接した場所を通る予定であるので、今回遺跡の有無の確認を行った。この場所については地形を平板測量し、トレンチ5及びトレンチ6を設定して確認を行った。なお、この巨石群は安山岩で構成されているが七宝山系の各所で露出する安山岩の状況とは様相を異している。何か人為的なものがあるのか、自然の状態ではないように観察できる。

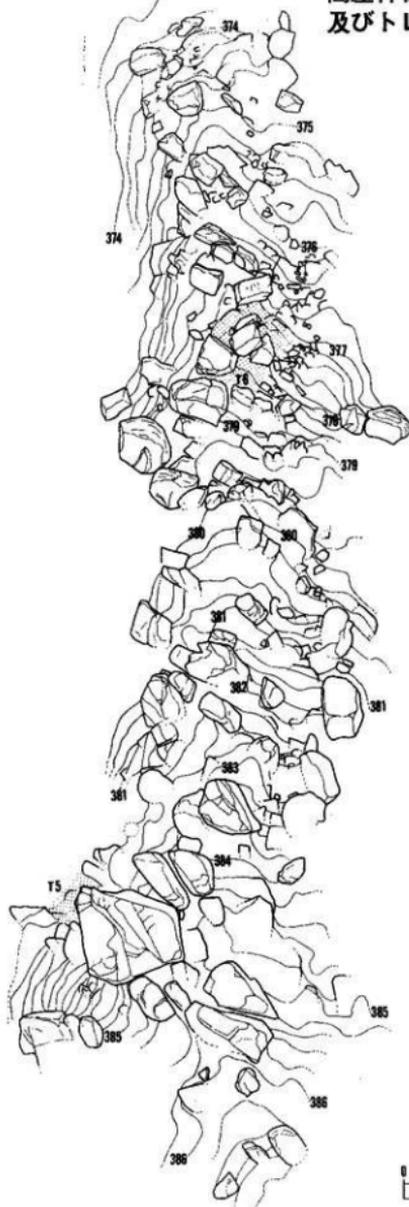
・トレンチ5（トレンチ位置については「高屋神社北東部巨石群及びトレンチ配置図」を参照。）

巨石群の中では最大の巨石の（最高点は標高約386m、巨石高約4m、上部平坦面径最大長約5m）下部に設定した。トレンチ位置は標高382m付近であり、腐植土を取り除くと安山岩の地山層になる。この状況は神社側の状況と同様である。遺物等は確認できなかった。

・トレンチ6

本トレンチの位置は標高378m付近の場所に設定した。この場所は3個の巨石が集まるところで一個の方柱状の巨石がもう一個の巨石に倒れかかり、あたかも合掌づくりの屋根を思わせる構造をとりその下にはある程度の空間がある状態になっている。遺構の検出作業はこの空間とその周囲を行った。結果、遺物等は検出されなかった。このことから、当初この巨石の状態は人為的なものではないかと思われたが遺物の出土はなく、偶然の作用が働いた自然物であるか、これという意図がないが人の力が働いた結果である可能性が極めて高いものと思われる。

高屋神社北東部巨石群測量図
及びトレンチ配置図



4. その他

・神社境内の石造物について（高屋神社境内図内X地点）

高屋神社本殿西側約25mの位置に意味不明の石造物が所在する。方柱状の石造物で（仮に南側を正面とすると）高さ約1m、正面底部幅約40cm、西側面底部幅約35cmの規模である。また、正面と西側には平らな石が本体に接するように置かれていて、その周囲には拳大から人頭大の礫が多く確認される構造をとっている。なお、石造物表面には銘文等の文字も無い。現在も信仰の対象になっているようで賽銭が供えられているが、今回は外見のみの観察であったのでその石造物の本来の用途や時代等については不明であるが本紙面を借りて紹介しておきたい。これがいわゆる磐座や磐境と呼ばれるものであるのか、何かの埋葬施設等であるのか今後の課題である。

5. まとめ

今回の試掘調査により各トレンチを設定して遺構・遺物の確認を行ったが出土遺物は極めてすくない結果となった。唯一、トレンチ1からの土師器片は古代のものと考えられるが、なにぶん1点のみの出土であるため早計な判断は避けたいが、何らかの遺跡の存在を示す資料であることも否定できない。この資料が式内社高屋神社成立に先行するものか、それ以後のものになるのか、また、祭祀に関係するものなのか、それ以外のものなのか現段階ではその判断は困難な問題である。今後の新たな機会を待たなければならない。

また、神社北東部の巨石群については、当初は祭祀遺跡の高屋神社の近くにあるため、磐座・磐境のような巨石信仰の祭祀の場の可能性も想定していたが、二つのトレンチ調査の結果出土遺物はなく現段階ではその可能性は低いように思われる。しかし、前述のように七宝山系で散見される安山岩の露出状況と比較すると明らかに様相を異にしているのは事実である。では、このような状況をどのように理解すべきなのであろうか。考えられるのは、高屋神社の造営に起因するのではないかということである。高屋神社には石垣、階段、建物の礎石等に大量の安山岩の石材が用いられている。このような石材をどのようにして調達したかということである。このことから考えると神社からさほど遠くない場所で安山岩が露出している場所となると限定されてくるのである。巨石群の位置は神社境内から続く山道を歩いて約100m余りの場所であり、また、神社周辺を探しても石材を大量に調達できる、あるいは、行ったと考えられる場所は見あたらず、現段階では神社造営のための石材をこの場所に求めた結果が不自然な状態で存在する巨石群の理由であると思われる。

最後に、高屋神社は標高400m余りの高所に造営されているが、その高所という不利な立地条件にもかかわらず平地に造営される神社と遜色ない建物、石垣等が存在する。このことは、神社造営のため旧地形がかなり改変されていることを示している。例えば、現在の石垣の外側に部分的ではあるが明らかに時代が遡る古い石垣が確認されることから想像以上に広範囲に渡って開墾がされて遺構が失われていることも考えられる。また、具体的に祭祀遺跡としての祭祀が行われた場所や種類については、今回の調査では林道にかかわるごく一部の調査面積であることや、石垣に囲まれた神社境内を調査の対象から除いているためか、遺構が狭い範囲にあるのか、判然としない結果となっている。だが、前述の土師器が出土していることもあるので、何らかの遺跡の存在の可能性を今後についても考慮に入れて対処すべきであると思われる。

6. 写真目次

1. 七宝山遠景	10
2. 七宝山遠景 (財田川より)	
3. 高屋神社から燧灘 (有明浜) を望む	11
4. 高屋神社北東部巨石群から紫雲出山を望む	
5. トレンチ 1	12
6. トレンチ 1	
7. トレンチ 2 (奥手が神社境内)	13
8. トレンチ 2 の巨石	
9. トレンチ 3 (表土除去後の状況)	14
10. トレンチ 3	
11. トレンチ 3	15
12. トレンチ 4	
13. 高屋神社北東部巨石群のトレンチ 5 上部の巨石の状況 (西側から撮影)	16
14. トレンチ 5	
15. トレンチ 6 (調査前の状況)	17
16. トレンチ 6	
17. トレンチ 6 付近の巨石の状況	18
18. トレンチ 6 北側の巨石下部の状況	
19. 高屋神社拝殿 (第 1 平坦面)	19
20. 高屋神社境内 (第 2 平坦面)	
21. 高屋神社境内 (第 3 平坦面)	20
22. 高屋神社 (下稲積)	
23. 高屋神社境内の石造物 (正面 - 南側)	21
24. 高屋神社境内の石造物 (側面 - 西側)	
25. 高屋神社境内の石造物 (側面 - 東側)	
26. ノタ (湧水池)	22
27. 火道 (防火帯 (幅約 7 m 前後) - 写真右手が仁尾町、左手が観音寺市)	
28. 龍王神 (龍王さん)	23
29. 土師器 (トレンチ 1 出土)	



1. 七宝山遠景



2. 七宝山遠景（財田川より）



3. 高屋神社から熾灘（有明浜）を望む



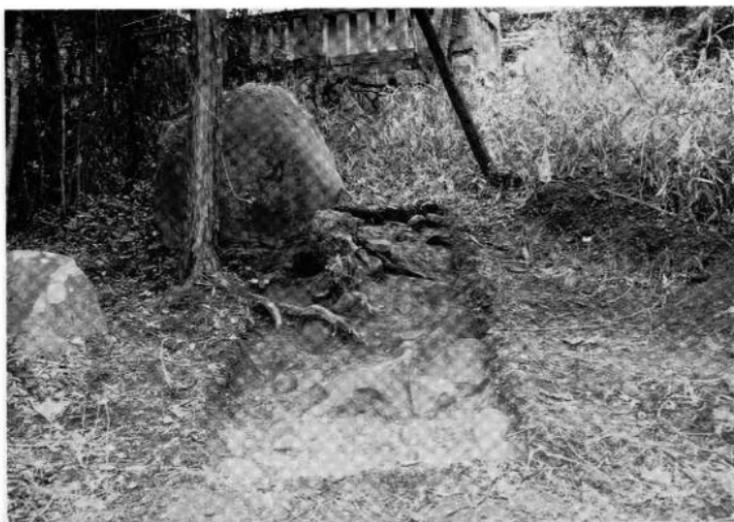
4. 高屋神社北東部巨石群から紫雲出山を望む



5. トレンチ1



6. トレンチ1



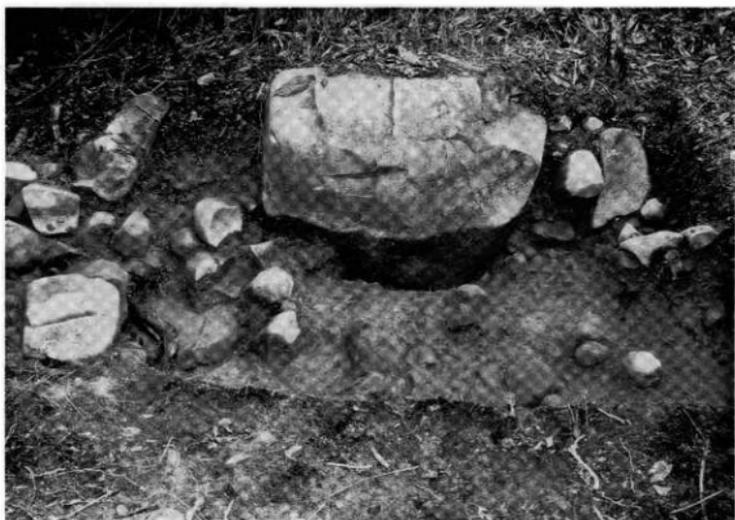
7. トレンチ2 (奥手が神社境内)



8. トレンチ2の巨石



9. トレンチ 3 (表土除去後の状況)



10. トレンチ 3



11. トレンチ3



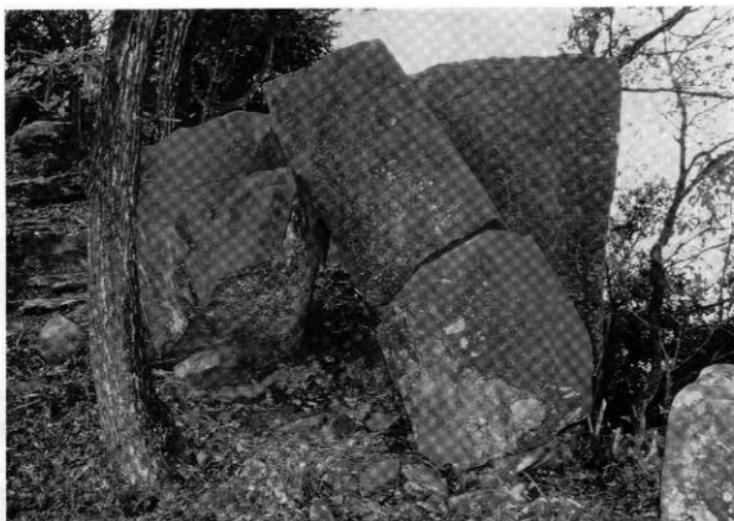
12. トレンチ4



13. 高屋神社北東部巨石群のトレンチ5上部の巨石の状況



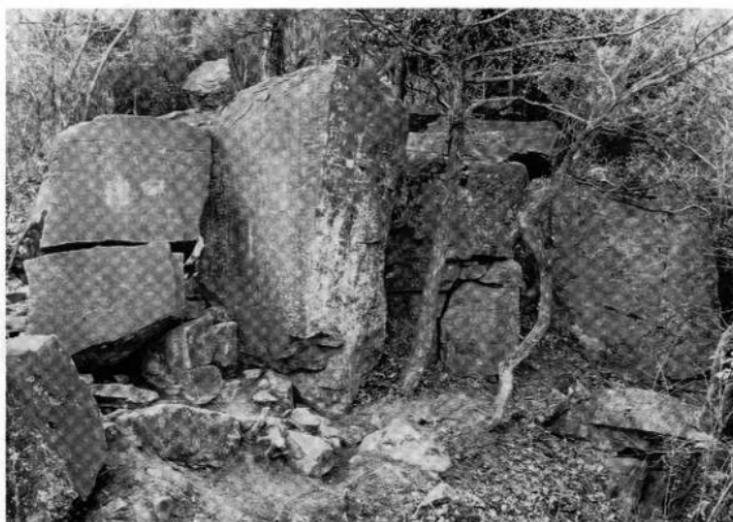
14. トレンチ5



15. トレンチ6 (調査前の状況)



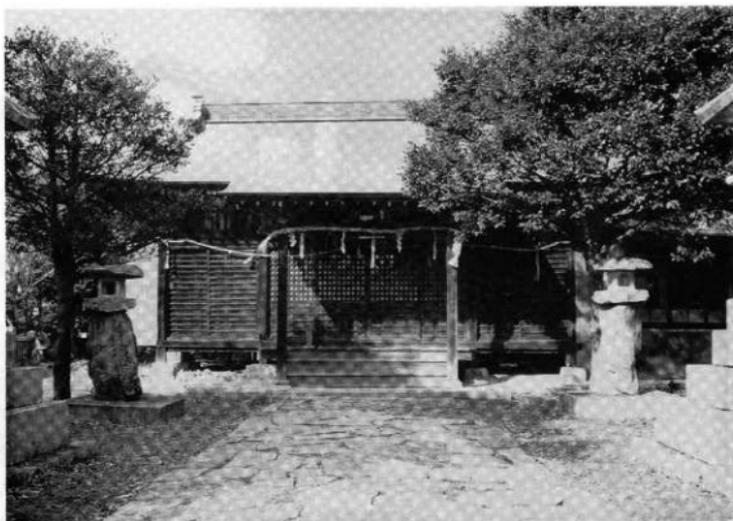
16. トレンチ6 (調査後の状況)



17. トレンチ 6 付近の巨石の状況



18. トレンチ 6 北側の巨石下部の状況



19. 高屋神社拝殿



20. 高屋神社境内（第2平坦面）



21. 高屋神社境内（第3平坦面）



22. 高屋神社（下稲積）

高屋神社境内の石造物



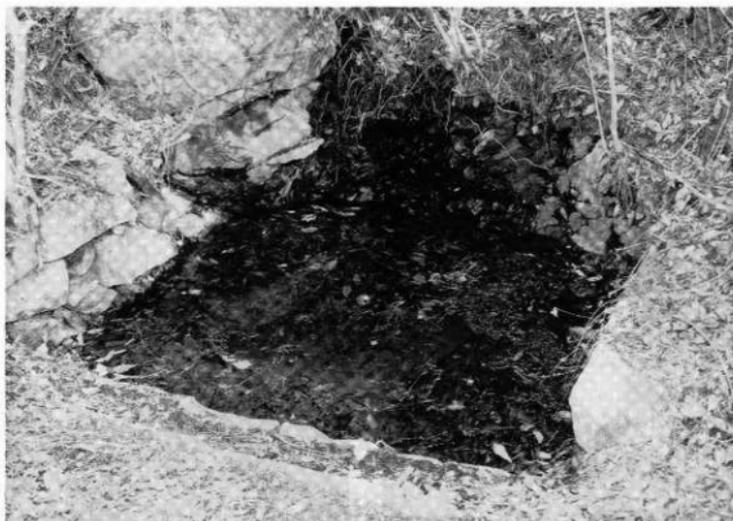
23. 正面 (南側)



24. 側面 (西側)



25. 側面 (東側)



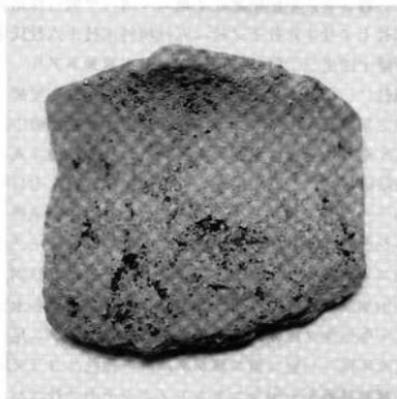
26. ノタ (湧水池)



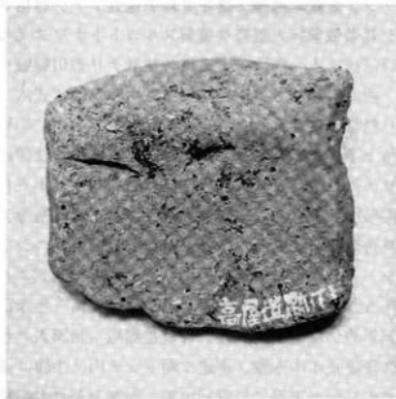
27. 火道 (防火帯)



28. 龍王神 (龍王さん)



(外側)



(内側)

29. 土師器 (トレンチ1出土)

【参考資料】

高室郷土誌（復刻版）

高屋神社

高室村社寺明細帳ニ 高室村大字高屋字稲岳山郷社上高屋神社祭神廻々杵命保食命咲夜比女命由緒三代實録ニ云貞觀九年五月十七日讚岐國正六位上高屋神從五位下ヲ授クトアリ延喜式内ノ神社ニシテ讚岐二十四社ノ一ト稱セリ・・・・（中略）・・・・古へハ山ノ嶺ニアリシヲ故有テ慶長年中ニ山ノ半腹ニ移シ寶永年間ニ又山ノ麓ニ遷セシカド尚舊地ニ小祠ノ存セラルヲ高稲積中稲積ト云ヘルニヨリ麓ニアルヲ下稲積トハ稱シ来レリ然ルニ里人ノ數々崇リ有ルヲ畏テ天保二年ニ至リテ遂ニ又山嶺ノ舊地ニ遷シ奉リ木殿等ヲ再ビ造營セリ而シテ下ノ社ニハ現今拜殿幣殿等ヲ存シ選擇所トナレリ春季大祭ニハ此ノ所ニ神幸アリテ一夜御滞在大祭式執行アリテ翌日還幸ナルガ慣例ナリ麓ヨリ本社ニ至ル十七町半羊腸ノ坂路ヲ登ルナリ麓ノ社前ニ石ノ鳥居アリ貞享四丁卯八月十三日建設ナリ是ヨリ三丁目ニ注連柱アリ明治二十五年四月上旬建設ナリ是ヨリ二丁目ニ木鳥居アリ又五丁目ニ鳴子神アリ此ノ所ノ巖穴晝夜トナク鳴響ス是ヨリ二十間程ノ所右へ一町程入りテ齋田社アリ上ルコト一丁目ニ中ノ社アリ尚三町ニシテ本社ノ境ニ達ス此ノ道石階三十間程最モ峻ナリ階ノ半バヨリ少シク降りテ道ノ中央ニ高サ九尺五尺周圍凡三尋ノ岩アリ尤モ二層ナリ之レヲユルギ岩ト云フ故ハ兒童モ指ヲ以テ押スニ動揺スルヲ以テナリ而シテ此ノ山ヲ稲積山ト稱スルハ播磨風土記掛保郡ノ條ニ讚岐稲積山ハ大汝命少日子根命二柱ノ神云々望見此山云彼山者當置稲積即遷稲種積於此山山形亦似稲積故号曰稲積山トアリ又祭神ノ瓊々杵尊木花咲夜比女命又村名高屋等ヲ以テ考フレバ日向ノ風土記ナル如敷郷ノ故事ニ縁アルコトモ聞ユ古へハ社田モアリシコトハ明ナリ其故ハ今ニ於テ字ニ宮地神樂場ナド稱スル地名ヲ存シ有ルバ其ノ證ナリ而シテ當社ノ靈德崇クシテ五穀ニ恩顧ノ篤キヲ以テ遠近トナク尊信スルモノ夥シク近年稲積講社ト稱スル講社ヲ數百株結合シ其崇敬參拜人靈符ヲ披與スルコトナリ又境内末社上ノ社ニ六社下ノ社ニ五社境外末社十六社氏子戸三百三十一明治三十二年ノ統計ナリ香川縣廳へノ距離十四里三十町高屋神社々司瀧本重秀トアリ

西讚府志ニ 高屋神社稲積大明神ト稱ス式内二十四社ノ一祭神木華開屋姫命祭祀八月十三日高屋郷ヨリ祭ヲナセリ昔山上ニアリシヲ慶長年中山ノ半腹ニ移之祭リ寶永中又今ノ地ニ移ス其旧趾ヲ高稲積中稲積トイヒテ小祠アリシニ天保二年高稲積ノ社幣殿拜殿ヲ造營シ年毎ニ三月十三日諸方ヨリ參り集ル人市ヲナセリト云フ」三代實録曰貞觀六年十月十五日授讚岐國正六位上高屋神從五位下同九年五月十七日授讚岐國正六位上高家神從五位下社林三町社僧連光院神子一人其ノ他此ノ社ニツキ彼レ是レト由緒來歴等ヲ書セルモノ尚多シト雖モ何レモ大同小異ニシテ一トシテ其ノ齊ヒ祭リタル始メヲ明カニシタルモノナシ・・・・（中略）・・・・延喜神名式ニハ讚岐二十四社ノ一ニ列セラレ貞觀六年十月十五日同九年五月十七日仁壽元年正月庚子及比天慶三年永治元年治承四年元曆二年建久元年弘長元年建治元年永徳元年等ノ位階増進ヲ經テ神威益顯然ニ諸國人ニ至ルマデ尊信深ク毎歲ノ祭日盛大ナリシコト疑フニ足ラス後慶長年中木殿ノ再建ヲ期トシテ山ノ半腹ニ遷シ寶永年間ニハ更ニ麓ニ移シタルコト棟札ニヨリテ明カナリ尚ホ天保二年再ビ山嶺ニ奉遷セシコトモ棟札ニ存セリカクテ現今ニ至ルモノニシテ中ノ社ニハ小祠ヲ存シ下ノ社ニハ拜殿幣殿ヲ存シ選擇所トセリ然シテ昔日ハ東西兩高屋室本吉岡村黒ノ六ヶ村氏神ト崇メ祭祀ノコトニ當リタルモ今ハ高室村ノミテ之レヲ行ヘリ。

【参考・引用文献】

- ・【観音寺市内遺跡発掘調査概要報告書 平成12年度国庫補助事業報告書 詳細分布調査概要報告書】2001.3 観音寺市教育委員会
- ・【観音寺市誌（資料編）】S60.1.1 観音寺市
- ・【高室の地名】H9.6 高室郷土史研究会
- ・【高室郷土誌 復刻版】S56.10.20 高室地区自治会協議会
- ・【復刻讃岐叢書 増補 西讃府志】S48.10.20 編集 丸亀藩京極家 発行所 藤田書店
- ・【香川県史 第八巻 資料編 古代・中世史料】S61.3.31 香川県
- ・【全国遺跡地図 香川県】S52.3.25 文化庁文化財保護部
- ・【神道考古学講座 第5巻 祭祀遺跡特説】S47.12.1 責任編集 大場磐雄 発行所 雄山閣出版株式会社
- ・【考古学ライブラリー10 祭祀遺跡】S57.5.10 著者 小野真一 発行所 ニュー・サイエンス社

報告書抄録

ふりがな	かんなんじないけきびつちようさがいようほうこくしょ							
書名	観音寺市内遺跡発掘調査概要報告書							
副書名	平成13年度国庫補助事業報告書 高屋遺跡試掘調査概要報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	久保田昇三							
編集機関	観音寺市教育委員会							
所在地	〒768-0060 香川県観音寺市観音寺町甲300番地1 TEL 0875-23-3943							
発行年月日	西暦 2002年 3月29日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	°' "	°' "		m ²	
たかやいせき 高屋遺跡	かがわけん 香川県 かんなんじ 観音寺市 たかやちよう 高屋町 あざいなかやま 字稲岳山	37205		34度 9分 27秒	133度 39分 27秒	20011107~ 20020207	24.6	七宝山林道 整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
高屋遺跡	祭祀遺跡?	詳細不明	詳細不明	土師器		・特になし		

観音寺市内遺跡発掘調査概要報告書
平成13年度国庫補助事業報告書
高屋遺跡試掘調査概要報告書
2002（平成14）年3月29日発行

編集・発行 観音寺市教育委員会
〒768-0060
香川県観音寺市観音寺町甲300番地1
電話 (0875) 23-3943
FAX (0875) 23-3925
印刷 備有明高速印刷